

序章

事業の概要

第1節 調査の目的と経緯

1 目的

本事業は市内全域を対象に、以下のことを目的として実施した。

- ・市内の特色ある地域を悉皆調査しリスト化すること。
- ・文化的景観の要素が顕著な地域について、その地域の特色を示し、地域らしさを守るための措置を考える基礎資料となる報告書を作成すること。
- ・国の重要文化的景観の候補となりうる地域をケーススタディに含めること。
- ・京都の全体と部分それぞれの特性を示し、その関係性を明らかにすること。また、これによって都市の文化的景観を読み解く方法論の一例とすること。
- ・文化的景観により地域の特性を示し、それを活かすことで地域の魅力づくりまで発展させることを意識し、景観政策やまちづくり政策にも生かせるよう配慮する。今後の行政政策に対し、文化的景観としてできることを検討すること。

2 体制

本事業は国庫補助事業として、平成27年度から令和元年度にかけて実施した。調査は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室に委託して実施した。

また「京都の文化的景観研究会」を設置し、調査方針等について学識経験者による審議をおこなった。本調査にかかる委員会等の構成は以下の通りである。

※以下、敬称略。委員長を除く各委員は50音順。

【京都の文化的景観研究会】

高橋 康夫（委員長 / 京都大学名誉教授 / 建築史・都市史）
 上杉 和央（京都府立大学准教授 / 地理学）
 小浦 久子（神戸芸術工科大学教授 / 都市計画）
 篠原 徹（滋賀県立琵琶湖博物館名誉館長 / 民俗学）
 清水 重敦（京都工芸繊維大学教授 / 建築史）
 下坂 守（京都国立博物館名誉館員 / 日本中世史）

深町 加津枝（京都大学准教授 / 景観生態学）

【調査員】

奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室

室長 中島 義晴

研究員 恵谷 浩子

アソシエイトフェロー 本間 智希（平成27～30年度）

京都大学

大学院生 水牧 達志, 村上 峻

京都工芸繊維大学

大学院生 鮎川 なつき, 森岡 里奈

京都府立大学

大学院生 和田 優人, 竹内 祥一朗

奈良女子大学

大学院生 元親 玲恵

慶応義塾大学

大学院生 稲田 玲奈

【事務局】

京都市文化市民局文化芸術都市推進室

部長 土橋 聡憲（平成27～29年度）

西山 真司（平成30・令和元年度）

アドバイザー 松田 彰（平成30・令和元年度）

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

課長 川妻 聖枝（平成27・28年度）

中川 慶太（平成29～令和元年度）

係長 村上 忠喜（平成27～29年度）

堀 大輔（平成28～令和元年度）

丸山 光洋（平成29・30年度）

長野 裕平（令和元年度）

主任 石川 祐一

職員 原戸 喜代里（平成27～30年度）

千木良 礼子

【関係機関】

文化庁文化財第二課

京都府教育庁指導部文化財保護課

京都市都市計画局都市景観部景観政策課

3 経過

平成 27 年度

【平成 27 年 6 月 3 日 第 1 回京都の文化的景観研究会】

主に、文化的景観の捉え方について協議を進めた。

【平成 28 年 3 月 3 日 第 2 回京都の文化的景観研究会】

文化的景観について各委員が共通認識を深めるため勉強会を開催し、各委員の専門分野について講義をし、文化的景観との関係性を議論することが決定した。

平成 28 年度

【平成 28 年 5 月 27 日 第 1 回勉強会】

巡見先：四条河原町、八坂神社、清水寺周辺

下坂委員報告：四条から五条の鴨川周辺の土地利用について
前回の京都の文化的景観研究会でとりあげたフィジオトープのまとめりに対し、文献史からみて歴史的地域がどう関係しているかの講義があった。

【平成 28 年 7 月 20 日 第 2 回勉強会】

巡見先：祇園山鉾町および長江家住宅

高橋委員長報告：祇園祭山鉾町の文化的景観

第 1 回勉強会のフィジオトープのまとめりに対して、都市史的な見方とどう関わるかについて講義があった。

【平成 28 年 11 月 8 日 第 3 回勉強会】

巡見先：旧三井下鴨別邸

上杉委員報告：地理学からみた文化的景観の捉え方

文化的景観の捉え方の基礎的な共通認識を再確認した。

【平成 29 年 3 月 13 日 第 3 回京都の文化的景観研究会】

深町委員報告：京都を支える近郊・北山の森林資源と営み
作成した生業や信仰の分布地図をみて議論した。

【平成 29 年 3 月 17 日 文化庁協議】

平成 29 年度

平成 28 年度に続き、勉強会を開催した。

【平成 29 年 5 月 24 日 第 4 回勉強会】

巡見先：西陣周辺

清水委員報告：都市における「文化的景観」の有効性—西陣プロジェクトを題材に

また、景観政策課による施策の発表があった。「歴史的資産周辺プロファイル」は、文化的景観と景観の政策を結ぶ方法として有効である。今回の調査事業は、1つの都市の中で、文化的景観を小さいエリアから大きいエリアまで

幅広く見て、全体の構造を明らかにしながら、個々の景観的特性を明らかにしていくものである。大都市を全体として捉えたとき、その中の一部をどう考えるかの一般事例にもなる。また都市全体をどう捉えるかという方法の一つの先例として出すことができる、などの意見があった。

【平成 29 年 8 月 17 日 第 5 回勉強会】

篠原委員報告：蕪村の詠んだ京

俳句では京都の実景より京都が持つ王朝のイメージを詠んでいると感じる。京都には虚構が先行している。京都という虚構にはある種の都市性や歴史性がある、などの指摘があった。

また、周縁部等と京都との関係性は昔も今後も変わらない。都市を支える価値がある。その枠組みを表現できたらよい、などの意見もあった。

【平成 29 年 9 月 14 日 文化庁協議】

【平成 29 年 10 月 30 日 第 6 回勉強会】

小浦委員報告：京都の山の都市性—近代の風致政策から

京都全体の文化的景観の特性や、最終章に未来にむけた内容を記述することが議論された。

【平成 30 年 3 月 16 日 第 4 回京都の文化的景観研究会】

各執筆者の内容の確認をおこなった。また、地域の各時代の歴史を探る研究はあるが、それらがどのように関わり合いながら現在の景観に至ったかを捉える研究はあまりなされていない、などの意見があった。

平成 30 年度

ケーススタディの選定や、調査研究のまとめについて協議した。

【平成 30 年 9 月 25 日 第 5 回京都の文化的景観研究会】

文化的景観に対して現在どのような課題があり、価値が失われる変化があるのか意識することが重要との指摘があった。また、神社寺院が経営困難な中で、自分たちで宅地開発をし、分譲して何とかしようとした例があるように、社会課題の中で景観は作り出されており、社会情勢の中で景観は変わる、などの意見があった。

平成 31 年度（令和元年度）

ケーススタディや 2 次リストの選定、調査研究のまとめについて以下の会議の他、委員と協議を重ねた。

【令和元年 5 月 20 日 第 6 回京都の文化的景観研究会】

【令和元年 10 月 28 日 文化庁協議】

第2節 調査対象と報告書の作成

1 調査対象

調査対象は京都市域全体とし、「中心地域」とそのまわりに広がるヒンターランド（後背地）を全体として「京都」と捉え、それぞれの役割や暮らし、その結果としての現在の景観の把握をおこなった。なお、ヒンターランドは、都に近く信仰や景勝といった機能が強い「周縁地域」と、その外側に広がる「周辺地域」とに区分した（図1）。

本調査では、フィールドワークや京都に関わる様々な文献から文化的景観として捉えられる地域のまとまりを抽出し、それを1次リスト（本書第4章第6節）とした。その上で、ケーススタディとして祇園祭山鉾町、西陣、東山、伏見、中川を取り上げつつ、2次リストでも13地区（東陣界限、東西本願寺界限、嵯峨、上賀茂、松ヶ崎・下鴨、鞍馬・貴船、大原、山科、鳥羽街道界限、大枝・大原野、愛宕山麓、久多、京北）を抽出した。



図1 京都の圏構造の概念図

2 報告書の構成

第1章では、京都という都市・地域の特性と、「文化的景観としての京都の価値」について俯瞰的に論じた。第2章では、歴史的要素や自然的要素の保存や継承の取組が進められる京都の現状から、「文化的景観としての京都の価値」とは何かを問い直した。第3章では、自然基盤、生業、生活文化、「町」・コミュニティという観点から実際の地域の景観を捉えつつ、「文化的景観としての京都の価値」を論じた。これらをふまえて、第4章では具体的な地域を取り上げ、その価値や保存・継承・創造について論じた。そして第5章として、これまでの論考及び研究会における議論で明らかになった「京都の文化的景観」の特性と未来にむけた内容についてまとめた。

本報告書の構造を図解したものが図2である。

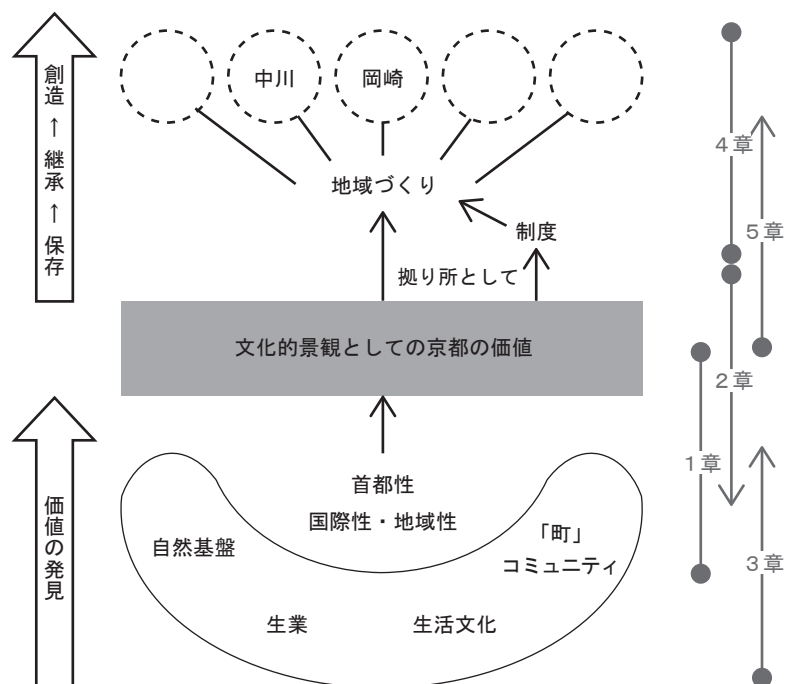


図2 本報告書の見取図

3 報告書の執筆

本書の編集は奈良文化財研究所景観研究室の恵谷浩子が担当し、京都市文化財保護課の千木良礼子も一端を担った。各節の執筆者と本書の編集・図版作成協力者は以下の通りである。

- 序章 第1節 京都市文化財保護課
- 第2節 恵谷 浩子
- 第1章 第1～4節 高橋 康夫
- 特論1 上杉 和央
- 特論2 下坂 守
- 第2章 第1・2節 小浦 久子
- 第3節 深町 加津枝
- 第4節 松田 彰
- 第3章 第1・2節 恵谷 浩子
- 第3節 村上 忠喜
- 第4節 小浦 久子
- 特論3 深町 加津枝

- 特論4 篠原 徹
- 第4章 第1節 高橋 康夫
- 第2節 1 竹内 祥一郎
- 2 千木良 礼子・堀 大輔
- 第3節 竹内 祥一郎
- 第4節 村上 忠喜
- 第5節 恵谷 浩子
- 第6節 1 奈良文化財研究所景観研究室・京都市文化財保護課
- 2 (5) 本間 智希
- (10) 竹内 祥一郎・恵谷 浩子
- 上記以外 千木良 礼子・堀 大輔
- 第5章 第1節 奈良文化財研究所景観研究室・京都市文化財保護課
- 第2節 京都市文化財保護課

【編集・図版作成協力者】

御田 智美, 北野 陽子, 竹内 祥一郎